第481号
2023年6月27日

土佐のわらべ

オーテピア高知図書館
子どもの本の読書会だより

《第503回(2023年6月8日) 子どもの本の読書会記録》 参加者:7人
時間:10:00～11:30 場所:オーテピア4階集会室

『13歳からの地政学 カイゾクとの地球儀航海』 田中 孝幸／著 東洋経済新報社

6月の課題図書は、『13 歳からの地政学』でした。中学生の杏と高校生の大樹、二人の兄弟が、子どもたちから「カイゾク」とあだ名されている老人に7日間のレッスンを持ちかけられます。最後のテストに合格すれば、ディプロマットという美しい地球儀をただでもらえるというのです。地球儀を使いながら進むカイゾクの講義を聞き、大樹と杏は今世界で起きている事柄を知って、考え始めます。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

●地政学という言葉もわからずに読んだが、勉強になった。貿易の 9 割が海を通っていることや、深海に核を載せた船が潜んでいることなど、知っているようで知らなかった。アフリカがずっと貧しい国なのにも理由があった。支配していた国の責任だと思う。アフリカもシンガポールのように発展できるといい。兄弟 2 人の最後のテストの回答がとても良かった。カイゾクの正体も気になった。

●読んでみて、自分の無知を知った。海をおさえれば、情報をおさえることができるとあったが、集めすぎると持っていないことに近くなる、という話に驚いた。少数民族が出ていこうとする遠心力についてなど、大人が読んでも考えさせられる良い本だと思う。自分にとっての地球の中心はどこか、という問いに対する自分の答えは「自分」だった。自分に都合のよいようにしか考えていなかったと思う。

●自分が子どものころは地政学という言葉はなかった。ニュースで知っているつもりになっていたことが分かる本だった。中国やロシアがなぜ領土を広げたがるのか、その答えがこの本にあった。「今の当たり前は未来の当たり前ではない」(162ページ)ので、良い方向に変わると期待したい。最後のテスト、私も地球の中心は「私」と思った。自分や家族など小さな単位が集まって世界ができていると思う。

●学校で地理と政治は別々に習ったが、つなげて考えることができるので地政という科目ができたらいい。ニュースがクリアに見られるようになった。地図やグラフなどの資料があるのも良かった。地球儀を使うことで、日本が世界からどう見られているかわかった。自分に都合よく物事を見てしまうので、読み返すことで自分の考えをフラットにできる本だと思う。視野を広げ、もっと知りたいを刺激してくれる本。

●自分は船乗りなので、海外にもよく行く。そのときに、語学はとても大切。初めて来た土地の人と心を通わせることができる。相手の言うことを認めたら、自分のことも認めてくれる。情報は多すぎるとフリーズしてしまう。その情報が正しいかどうか判断するために勉強が必要だと思う。地球の中心は自分。しかし、その考えも学びを続けて、常に更新していくことが大切。

●これまで何故と思っていたことが整理できた。中国が南シナ海にこだわる理由がわかり怖くなった。人間は自分の育った環境を標準として世界を見ようとする、というカイゾクの言葉にハッとした。国と国の信頼関係を築くためには相手国を理解することが必要。日本人ばかりと接していると気づかない間に偏見を持っているのでは？せめて読書を通して他国のことを知りたいと思った。

●軍事力のあるアメリカが最強の国だったり、ロシアや中国が核を搭載した原子力潜水艦を海に潜ませようとしたり、軍事力がものをいうところがやるせないと感じた。ただ、後半は、相手国を理解することの大切さが書かれており、内向きにならず、相手を知る・理解することが平和につながると思った。学校で社会情勢について学ぶ材料にもできる本。一章ずつ読んで、まわりと話をすることで自分の考えも深まる。

次回 7月13日(木)10:00～11:30 オーテピア4階集会室
📖『5番レーン』 ウン ソホル／作, ノ インギョン／絵, すんみ／訳 鈴木出版
※申込み・参加費は不要です。